

中部学院大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者 学校法人 岐阜済美学院
理事長 片桐 武司
学 長 片桐 多恵子
A L O 吉川 杉生
開設年月日 昭和 42 年 4 月 1 日
所在地 岐阜県関市倉知 4909 - 3

設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
経営		70
社会福祉		100
幼児教育		100
	合 計	270

専攻科および入学定員

専攻	入学定員
福祉	30
	合 計 30

機関別評価結果

1. 機関別評価結果

中部学院大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

2. 機関別評価結果の事由

中部学院大学短期大学部の設置母体である学校法人岐阜済美学院は、大学、高等学校、幼稚園等を擁する学校法人である。当該短期大学は、昭和 42 年、英文科及び幼児教育科を有する短期大学として創設され、現在は幼児教育学科、社会福祉学科、経営学科の 3 学科、及び福祉専攻科を設置している。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学では、建学の理念をキリスト教主義に置いており、学院の建学の精神を「神を畏れることは、知識のはじめである」と現し、また、建学の精神・教育理念に従って、「『建学の精神』の具現化」、「愛する人・奉仕する人・賛美する人の育成」、「激動の時代に求められる創造的で自主性に充ちた人材の育成」、「国際化を一層進めるとともに、地域への知的情報の発信体制を充実させ、地域社会に貢献」等の具体的教育方針を掲げており、各学科・専攻はそれに基づき教育目的を設定している。

教育課程には建学の精神や教育理念が反映されており、その内容はそれぞれの学科等の教育目的や教育目標に基づいたものである。教養教育、専門教育とも短期大学として十分な内容を備えており、教育課程改善への組織的な対応もされている。

免許・資格等の取得へも配慮がなされ、授業形態と必修と選択のバランス、卒業要件は適切である。資格取得の取り組みと実績も、個々のニーズに応じて関連資格を取得させるなど十分であり、編入学希望者には積極的に対応している。また、専門分野への就職の割合は高く、卒業生の就職先からの評価について意見も聴取している。

学生支援として、就職支援室等も完備され、就職のための資格取得、就職試験対策等の支援もなされている。

教員の研究活動及び科学研究費補助金等の外部資金の導入も成果をあげており、教員各個人の研究活動の状況も公開されている。

社会的活動としては、地域の市民に対して公開講座等を実施して地域社会の活性化に貢献している一方、学生のボランティア活動等も積極的に行われている。また、社会人の受け入れに対して意欲的である。

理事会は適切に運営されており、理事長は学校法人の運営全般にわたってリーダーシップを発揮している。教授会のもとに教育上の委員会等が設置され、運営されている。短期大学の事務部門は事務諸規程等を整備し、適切に業務を行っている。また、学校法人は教職員の就業に関する規程を整備し、それらを教職員に周知するとともに適正に処理している。

学校法人及び短期大学は、中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を策定し、年度予算は適正に執行されている。公認会計士の監査意見への対応も適切であり、財務状況は良好である。教育研究用の施設設備及び学習資源配分は適切であり、短期大学にとって必要な施設設備の関連諸規程も整備されている。

自己点検・評価の実施体制としては、規程及び組織を整備し、定期的に自己点検・評価を行い、報告書を公表している。活動には多くの教職員が関与するよう配慮されており、「将来問題検討委員会」を組織するなどして、自己点検・評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮している。また、岐阜県内の18の大学・短期大学で取り組む「国際ネットワーク大学」へ積極的に参加していることも評価できる。

3. 優れている点及び向上・充実のための課題

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ・ 建学の精神については、「桐ヶ谷通信」(年2回発行)が全教職員・学生に配布され、理解が得られるよう努力している他、教職員・学生参加のチャペル・アワー(週2回開催)においても、建学の精神及び理念について言及されている。

評価領域 教育の内容

- ・ 授業改善への組織的な取り組み状況として、「教育内容改善委員会」による授業評価の見直しと、教育内容の改善に関する学習会が行われている。
- ・ 取得可能な免許・資格が極めて豊富であり、学生の多様なニーズに応えるものと認められる。
- ・ 授業評価(年2回)の結果は、図書館で公表されている。学生の授業に対する満足度も概ね良好である。また、学生のコメントや意見のみならず、各教員が相互に授業見学を

実施し、相互理解を深め、授業改善に役立てている。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 教育環境は良く整備されており、特に情報通信環境については、情報教室に自動施錠装置を導入し、学生証による認証システムを整備する等、学生の自由利用の促進を含めた配慮がなされている。図書館の相互利用受付数は年々増加しており、図書館の活性化がなされている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 幼児教育学科及び社会福祉学科は、例年高い就職率を維持しており、就職先からも高い評価を受けている。

評価領域 学生支援

- ・ 進度の速い学生や、研究活動・課外活動等において顕著な功績のあった者に対しては学長賞が授与される他、課外活動において大学の発展に貢献した者、社会的名声を高める活躍をした者等に対しては、同窓会が表彰しており、在学生、卒業生の意欲の向上を図っている。

評価領域 研究

- ・ 科学研究費補助金や岐阜県等の研究費等、外部資金の導入に意欲的に取り組み、成果も上がっている。

評価領域 社会的活動

- ・ 平成 13 年に「生涯学習センター」を設置、担当教員と専任職員を配置し、オープンカレッジ講座、学内授業の公開講座、セミナーの開催を積極的に行っている。
- ・ 学生のボランティア系サークルが多くあり、ボランティア活動が活発に行われている。

評価領域 管理運営

- ・ 重要案件に関しては、大学運営協議会等での審議を経て特別委員会またはプロジェクトチームを編成して集中的に検討している。
- ・ 学生に対する「事務局に関する調査」によって業務改善を図り、内部研修を実施し、外部活力の導入としての人材登用を行っている。

評価領域 財務

- ・ 財務比率は平均より良く、借入金も少なく、現預金も前年度を上回っている。
- ・ 特別補助金等外部資金獲得に努め、実績を上げている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 今後卒業生の追跡調査等も実施し、さらに分析を進め、具体的な向上・充実がなされることを期待する。

評価領域 学生支援

- ・ 基礎学力不足の学生対応に留意されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし